

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

平成28年6月10日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 理学研究科

職名・学年 助教

氏名 柴田知之

助成の種類	平成27年度 ・ 研究者交流支援 ・ 国際研究集会発表助成／一般		
研究集会名	2015ゴールドシュミット国際会議		
発表題目	Fractionation of garnet and amphibole of Pre-Komitake prior to Fuji and Komitake volcanoes, Japan		
開催場所	プラハ、チェコ共和国		
渡航期間	平成27年8月15日 ～ 平成27年8月22日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	要旨登録料 (490€, ¥69,729)	
		参加費 (100€, ¥13,615.)	
航空料金 (¥255,340)			
宿泊費の一部 (¥11,616)			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 外部資金の使途に関する制約が厳しくなってい来た現状で、予期せぬ成果が上がり、それを国際学会で発表しようとする、その資金の調達が困難になることがある。今回は、まさにそのような状況だったので、貴財団の助成なくしては、参加が非常に困難だったので、深く感謝している。 今後の助成に臨むことは、若い研究者に対する援助は年々手厚くなってきているように感じるが、良い研究をしているのに職に恵まれず年齢を重ねたポストドクの方も多くおられる。そのような方が、この様な助成を受けられる機会が増えると良いのではないかと思います。		

成果の概要  
理学研究科・助教  
柴田知之

## 国際会議の概要

平成27年8月15日から22日にかけて、チェコ共和国プラハで行われた2015ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt Conference 2015)に参加し、口頭発表を行った。ゴールドシュミット国際会議は現在国際地球化学会とヨーロッパ地球化学会の共催で開催され、奇数年はヨーロッパ、偶数年はアメリカで開催される。日本地球化学会も参加しているため、過去には倉敷市で、2016年度は横浜で開催される。今回の会議には、主催者発表では約3,500人が参加した。内容は、非常に広範であるが、特に最近では環境変動に関連するセッションが著しく増加しているように思われる。

その中で私は、プレート収斂境界の地球化学というテーマの中の、島弧火成活動：マグマの起源・上昇機構・噴火様式というセッションで発表を行った。講演内容は **Fractionation of garnet and amphibole of Pre-Komitake prior to Fuji and Komitake volcanoes, Japan** (富士山・小御岳に先行して活動した先小御岳のマグマにおけるザクロ石と角閃石の結晶分化作用) である。これは、近年ボーリング調査で発見された、富士山の山体下に埋まっていた、富士山・小御岳形成以前に活動したマグマを地球化学的に研究したものである。近年、島弧マグマへのザクロ石の役割が注目されていて、マグマの分化の書記にザクロ石が分別する可能性が指摘されていた。しかし、この現象を、天然のマグマで観察した例はなかった。今回の発表は、この現象を世界で初めて天然で捉えた内容であった。講演終了後には、いくつか質問を受け、オーストラリア国立大学のリチャード・アキュラス教授などと、有意義な議論ができた。

このセッションでは他に、ハイブリッドマグマティズムなど、近年注目を浴びつつあるテーマについての発表などもあり、今後の研究活動にとって非常に有益な情報を得ることができた。

今回、このような非常に有益な国際会議に出席できたのは、公益財団法人京都大学教育研究振興財団の助成を受けられたからであり、個々に、心から感謝申し上げます。